

## 研究所年報 巻頭の言葉

和漢医薬学総合研究所は1963年4月に富山大学薬学部附属和漢薬研究施設として設置され、その使命は、経験知の集積である伝統医学、あるいはそこで使用される薬物について、先端科学技術を駆使して科学的に評価し和漢医薬学と西洋医薬学の融合をはかり、新しい医薬学体系の構築と自然環境の保全を含めた全人医療の確立に貢献することにあります。

本研究所はこの使命を果たすべく、特色ある学術研究プロジェクトに取り組み、2010年より和漢医薬学に特化した国内唯一の附置研究所として文部科学大臣より「和漢薬の科学基盤形成拠点」に認定されました。本事業では、他の大学や研究機関の研究者と連携して和漢医薬学に関する公募型共同研究を積極的に進め、本分野の発展に貢献する研究を実施してきました。また、2013年の拠点事業中間評価における「漢方薬の作用機序に関する西洋医学との融合」との指摘に対しては特定研究「漢方薬が有する複雑系の解析」を設定し、漢方薬や生薬の作用機序の解明をテーマとした研究を推進しております。

本研究所の組織は、3部門(8分野)と1寄附部門からなる研究部、国際共同研究部と民族薬物資料館からなる民族薬物研究センター、および拠点事業推進室により構成されています。しかし、拠点事業をさらに推進するためには、より機能的な組織体制を構築・整備する必要があり、スタッフ構成を含めた組織の見直しと再編を図っています。

民族薬物資料館は全国に誇る富山大学を代表する施設として、中高生を対象とした「ひらめき☆ときめきサイエンス」などの一般公開事業を積極的に行うとともに、ニュースレター刊行を継続するなど、より広く発信することに努めております。

このように、共同利用・共同研究拠点の組織・機能の充実を図りつつ、所員が一丸となり和漢医薬学研究の進展を図る所存ですので、今後共、皆様方からの一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年1月

和漢医薬学総合研究所 所長 柴原直利